作成日　2006 年 4 月 26 日
改訂日　2025 年 9 月 18 日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称　：サンケイダイアジノン乳剤４０
供給者の会社名称，住所及び電話番号
会社名称　：サンケイ化学株式会社
住所　：〒110-0005　東京都台東区上野７丁目 6-11(第一下谷ビル)
担当部門　：開発部
電話番号　：03-3845-7951
ＦＡＸ番号　：03-3845-7950
緊急連絡先　：同上
整理番号　：Ｂ－　64
推奨用途及び使用上の制限　：農薬

2. 危険有害性の要約

化学品のＧＨＳ分類

物理化学的危険性	引火性液体	：	区分３
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	：	区分４
	急性毒性(経皮)	：	区分に該当しない
	急性毒性(吸入)	：	区分４
	皮膚腐食性／刺激性	：	区分２
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	：	区分１
	呼吸器感作性	：	分類できない
	皮膚感作性	：	区分に該当しない
	生殖細胞変異原性	：	区分に該当しない
	発がん性	：	区分２
	生殖毒性	：	区分 1B
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	：	区分１(中枢神経系、呼吸器、肝臓、腎臓) 区分２(神経系) 区分３(気道刺激性、麻酔作用)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	：	区分１(神経系、聴覚器、呼吸器) 区分２(腎臓、肝臓、精巣)
	誤えん有害性	：	区分１
環境に対する有害性	水生環境有害性　短期(急性)	：	区分１
	水生環境有害性　長期(慢性)	：	区分１

上記に記載がないものは、「区分に該当しない」か「分類できない」である。

ＧＨＳラベル要素

絵表示　：

注意喚起語　：危険
危険有害性情報　：H226　引火性液体及び蒸気
H302　飲み込むと有害
H332　吸入すると有害
H315　皮膚刺激
H318　重篤な眼の損傷
H351　発がんのおそれの疑い

作成日　　2006 年 4 月 26 日
改訂日　　2025 年 9 月 18 日

H360　生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
H370　中枢神経系、呼吸器、肝臓、腎臓の障害
H371　神経系の障害のおそれ
H335　呼吸器への刺激のおそれ
H336　眠気又はめまいのおそれ
H372　長期にわたる、又は反復ばく露による中枢神経系、呼吸器、肝臓、腎臓の障害
H373　長期にわたる、又は反復ばく露による腎臓、肝臓、精巣の障害のおそれ
H304　飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
H400　水生生物に非常に強い毒性
H410　長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き　：【安全対策】
P201　使用前に取扱説明書を入手すること。
P202　全ての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
P210　熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
P233　容器を密閉しておくこと。
P240　容器を接地しアースを取ること。
P241　防爆型の電気機器／換気装置／照明機器等を使用すること。
P242　火花を発生させない工具を使用すること。
P243　静電気放電に対する予防措置を講ずること。
P260　粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
P264　取扱い後は手をよく洗うこと。
P270　この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
P271　屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
P273　環境への放出を避けること。
P280　保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面等を着用すること。

：【応急措置】
P301+P310　飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。
P302+P352　皮膚に付着した場合：多量の水と石けんで洗うこと。
P303+P361+P353　皮膚又は髪に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。
P304+P340　吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P305+P351+P338　眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P308+P313　ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。
P310　直ちに医師に連絡すること。
P312　気分が悪い時は医師に連絡すること。
P314　気分が悪い時は、医師の診察／手当てを受けること。
P321　特別な処置が必要である(4.応急措置を参照)。
P330　口をすすぐこと。
P331　無理に吐かせないこと。
P332+P313　皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。
P337+P313　眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。
P361+P364　汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
P370+P378　火災の場合：消火するために適切な消火剤を使用すること。
P391　漏出物を回収すること。

：【保管】
P403+P233　換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
P403+P235　換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
P405　施錠して保管すること。

：【廃棄】
P501　内容物や容器は、当該規則に従い都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して、適切に廃棄すること。

作成日　　2006 年 4 月 26 日
改訂日　　2025 年 9 月 18 日

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別　　：混合物

化学名又は一般名	含有量
(2ーイソプロピルー4ーメチルピリミジルー6)ージエチルチオホスフェート （一般名：ダイアジノン）	40.0%
有機溶剤、乳化剤等	60.0%

化学名又は一般名	含有量	CAS No.	化管法 管理番号	官報公示整理番号	
				化審法	安衛法
ダイアジノン	40.0%	333-41-5	1種248	5-923	8-(2)-458
キシレン	26.0%	1330-20-7	1種80	3-3	ー
エチルベンゼン	25.0%	100-41-4	1種53	3-28	ー
ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル	1.1%	非公表	1種410	ー	ー
鉱油	0.8～1.2%	非公表	ー	ー	ー

4. 応急措置

吸入した場合　：空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
異常が続く場合は、速やかに医師の手当てを受けること。

皮膚に付着した場合　：直ちに多量の水と石けんでよく洗うこと。
異常があれば速やかに医師の手当てを受けること。
作業後は衣服等を交換し、着用していた衣服は他の物と分けて洗濯すること。

眼に入った場合　：水で数分間注意深く洗うこと。
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること。
医師の手当を受ける。

飲み込んだ場合　：無理に吐き出させないこと。
直ちに医師の手当てを受けさせること。
被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。
ダイアジノンの解毒剤としては硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤が有効と報告されている。

急性症状　：以下のような、有機リン剤に共通の症状を呈す。
瞳孔収縮、昏睡、痙攣、嘔吐、下痢、腹痛、流涎。

5. 火災時の措置

適切な消火剤　：噴霧水・泡消火剤・粉末ドライケミカル・炭酸ガス(適宜、状況に応じて使用する)。

使ってはならない消火剤　：冷却の目的で霧状水は用いてもよいが、消火に棒状水を用いてはならない。

火災時の特有の危険有害性　：当該製品の構成成分として窒素、燐、硫黄原子を含有しており、燃焼ガス中に窒素酸化物や硫黄酸化物などの有害ガスが含有する危険性がある。消火作業の際、煙を吸入しないよう注意すること。

特有の消火方法　：消火作業は、可能な限り風上から行う。
引火性があるので、速やかに容器を安全な場所に移す。
移動不可能な場合は、周辺または容器に散水し、冷却する。
消火のための放水等により、環境に影響を及ぼさないよう適切な措置を行う。

作成日　2006 年 4 月 26 日
改訂日　2025 年 9 月 18 日

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項，保護具及び緊急時措置
：屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。
漏出時の処理を行う際には保護具を着用する。

環境に対する注意事項　：本剤は海洋汚染物質である。
流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材
：布、吸着マット、乾燥砂などに吸着させ、密閉容器に回収する。
土嚢、土砂、布などで漏洩の拡大を防止し、出来るだけ多く密閉容器に回収する。
汚染された箇所は、布などで拭き取る

二次災害防止策　：付近の着火源となるものを速やかに取り除き、消火剤を準備する。
火花を発生しない安全な工具を用いる。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い　技術的対策　：炎、火花もしくは高温体との接触または過熱を避ける。
機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する

安全取扱注意事項　：ラベルをよく読む。記載以外に使用しない。
取扱いは換気の良い場所で行い、作業場の換気は十分行う。
取扱場所の近くに、緊急時に洗眼及び身体洗浄を行うための設備を設置する。
屋外での取扱いはなるべく風上から作業する。
取扱いの都度、容器を密閉する。
眼、皮膚、衣類に付けないこと。
原液は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないように注意すること。
皮膚に対して刺激性があるので、皮膚に付着しないように注意すること。
かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
発散した蒸気を吸い込まないようにする。
適切な保護具を着用すること。
高温、火気の近くで取扱ってはならない。

局所排気・全体排気　：「8. ばく露防止及び保護措置」を参照
接触回避　：「10. 安定性及び反応性」を参照
衛生対策　：この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをすること。

保管　安全な保管条件　：食物、飲料等と区別し、火気、直射日光を避け、鍵のかかるなるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管すること。
小児の手の届く所へ置かない。

安全な容器包装材料　：国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度
キシレン　：50ppm
エチルベンゼン　：20ppm

許容濃度
日本産業衛生学会
ダイアジノン　：0.1mg/m3
キシレン　：50ppm(217mg/m3)
エチルベンゼン　：20ppm(87mg/m3)
鉱油(鉱油ミストとして)　：3 mg/m3

作成日　　2006 年 4 月 26 日
改訂日　　2025 年 9 月 18 日

ＡＣＧＩＨ
　ダイアジノン　　TLV-TWA 0.01mg/m3
　キシレン　　：TLV-TWA 100ppm (434mg/m3)
　　TLV-STEL 150ppm(651mg/m3)
　エチルベンゼン　　：TLV-STEL 20ppm(87mg/m3)
　鉱油(鉱油ミストとして)　：TLV-TWA 5mg/m3
設備対策　　：屋内で取扱う場合には、全体換気装置を設置する。
　できるだけ密閉された装置、機器又は局所排気装置を使用する。
　取扱場所の近くに洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。
保護具
　呼吸用保護具　　：有機ガス用防毒マスク
　手の保護具　　：不浸透性ゴム手袋
　眼、顔面の保護具　　：保護眼鏡、ゴーグル等
　皮膚及び身体の保護具　：不浸透性防除衣(長袖)、長靴等

9. 物理的及び化学的性質

物理状態　　：液体
色　　：淡赤褐色透明
臭い　　：特有臭
融点／凝固点　　：情報なし
沸点又は初留点及び沸騰範囲　：情報なし
可燃性　　：情報なし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界
　　：情報なし
引火点　　：32～34℃
自然発火点　　：情報なし
分解温度　　：参考値；≧215℃（ダイアジノン）
ｐＨ　　：情報なし
動粘性率　　：情報なし
溶解度　　：情報なし
n-オクタノール／水分配係数(log 値)
　　：Log Pow = 3.42(24℃)（ダイアジノン）
蒸気圧　　：情報なし
密度及び／又は相対密度　　：0.97～0.99(20℃)
相対ガス密度　　：情報なし
粒子特性　　：情報なし

10. 安定性及び反応性

反応性　　：酸性下で分解が速い。アルカリ条件下で徐々に分解する。
　酸化されやすい。
化学的安定性　　：通常の使用では安定
危険有害反応可能性　　：酸分解　酸化
避けるべき条件　　：酸、アルカリ、酸化剤との接触
混触危険物質　　：酸、酸化剤
危険有害な分解生成物　　：酸化物(ダイアゾクソン)

11. 有害性情報

急性毒性
　経口　　区分4
　　ラットLD50　雄 0.564 mL/kg (558 mg/kg 相当)
　　雌 0.765 mL/kg (757 mg/kg 相当)

作成日　　2006 年 4 月 26 日
改訂日　　2025 年 9 月 18 日

経皮　　区分に該当しない
ラットLD50　雄, 雌 >5 mL/kg（>4950 mg/kg 相当）

吸入（ミスト）　　区分4
ダイアジノン　ラットLC50 雄, 雌 3.1 mg/L（ミスト） 区分4
キシレン　ラットLC50 29.09 mg/L（蒸気） 区分に該当しない
エチルベンゼン　ラットLC50 17.2 mg/L（蒸気） 区分4
鉱油　ラットLC50 5 mg/L（ミスト） 区分4
キシレンとエチルベンゼンは蒸気での結果を参考にした。
上記以外で、本製品中に 1.0%以上含まれる成分について、利用可能な吸入暴露データがないため、未知成分補正の加算式より求めた ATEmix 値に基づき、区分 4 とした。

ダイアジノン原体

経口　：区分 4
ラット LD50 雄, 521 mg/kg；雌, 485 mg/kg（原体）

経皮　：区分 3
ラット LD50 雄, 1666 mg/kg；雌, 876 mg/kg（原体）

吸入（ミスト）　：区分 4
ラット LC50 雌雄, 3.1 mg/L（4時間ばく露）（原体）

皮膚腐食性／刺激性　：区分 2

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性
：区分 1

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性　：データが不足しているため分類できない。

皮膚感作性　：区分に該当しない
モルモット　陰性

生殖細胞変異原性　：区分に該当しない

発がん性　：成分の情報より、区分 2 とした。
(成分)
エチルベンゼン：区分 2(IARC 分類 2B)

生殖毒性　：成分の情報より、区分 1B とした。
(成分)
エチルベンゼン：区分 1B
キシレン：区分 1B

特定標的臓器毒性(単回ばく露)
：成分の情報より、区分 1(中枢神経系、呼吸器、肝臓、腎臓)、区分 2(神経系)、区分 3(気道刺激性、麻酔作用)とした。
(成分)
ダイアジノン：区分 2(神経系)
エチルベンゼン：区分 3(起動刺激性、麻酔作用)
キシレン：区分 1(中枢神経系、呼吸器、肝臓、腎臓)、区分 3(麻酔作用)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)
：成分の情報より、区分 1(神経系、聴覚器、呼吸器)、区分 2(腎臓、肝臓、精巣)とした。
(成分)
ダイアジノン：区分 2(腎臓、神経系、肝臓、精巣)
エチルベンゼン：区分 1(聴覚器、神経系)
キシレン：区分 1（神経系、呼吸器)

作成日　2006 年 4 月 26 日
改訂日　2025 年 9 月 18 日

誤えん有害性　：成分の情報より、区分１した。
（成分）
エチルベンゼン：区分１
キシレン：区分１

12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期(急性)　：区分１
水生環境有害性 長期(慢性)　：区分１

生態毒性
魚(コイ)　：LC50 = 26.1 mg/L (96 時間)
甲殻類(オオミジンコ)　：EC50 = 1330 ng/L (48 時間)
藻類(緑藻)　：ErC50 > 1000 mg/L (72 時間)

ダイアジノン原体
甲殻類(オオミジンコ)　：慢性遊泳阻害 NOEC ≥ 200 ng/L (21 日間)
繁殖 EC50 = 191 ng/L (累積産仔数)
繁殖 NOEC = 50 ng/L (累積産仔数)

残留性・分解性　：酸化分解または加水分解により速やかに分解　(原体)
生態蓄積性　：コイ BCF = 65～78　(原体)
土壌中の移動性　：情報なし
オゾン層への有害性　：情報なし
その他　：ミツバチ、蚕、昆虫等に影響あり

13. 廃棄上の注意

化学品(残余廃棄物)、当該化学品が付着している汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

残余廃棄物　：関連法規並びに地方自治体の規則に従い、廃棄物処理業者に処理を委託する等により適切に廃棄すること。
汚染容器及び包装　：関連法規並びに地方自治体の規則に従って適切に処理を行うこと。

14. 輸送上の注意

国際規制　国連番号　：UN3017
品名　：ORGANOPHOSPHOROUS PESTICIDE, LIQUID, TOXIC, FLAMMABLE flash point not less than 23 23° C, DIAZINON
国連分類　：クラス 6.1(毒物)
容器等級　：Ⅲ
海洋汚染物質　：該当
国内規制　陸上輸送　：道路法等の規定に従う。
海上輸送　：船舶安全法の規定に従う。
航空輸送　：航空法の規定に従う。
特別の安全対策　：輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないよう積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
車両、船舶には保護具(手袋、メガネ、マスク等)を常備する他、緊急時の処理に必要な消化器、工具等を備えておく。
緊急時応急措置指針番号　：131

作成日　　2006 年 4 月 26 日
改訂日　　2025 年 9 月 18 日

15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法

第一種指定化学物質

：チオりん酸Ｏ，Ｏ－ジエチル－Ｏ－(2－イソプロピル－6－メチル－4－ピリミジニル)(別名ダイアジノン)(管理番号：248)
ポリ(オキシエチレン)＝アルキルフェニルエーテル(アルキル基の炭素数が 9 のものに限る。)(管理番号：410)
キシレン(管理番号：80)
エチルベンゼン(管理番号：53)

労働安全衛生法

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第 57 条)

：ダイアジノン
キシレン
エチルベンゼン
鉱油

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第 57 条の 2)

：ダイアジノン
キシレン
エチルベンゼン
鉱油

危険物(令別表第 1)　：キシレン

皮膚等障害化学物質等(則第 594 条の 2)

：ダイアジノン(皮膚刺激性有害物質、皮膚吸収性有害物質)
エチルベンゼン(特化則等)
キシレン(皮膚吸収性有害物質)

特定化学物質等(特化則)　：エチルベンゼン

有機溶剤等(有機則)　：キシレン

毒劇物取締法　：医薬用外劇物

化審法

優先評価化学物質　：キシレン
エチルベンゼン

消防法　：第 4 類 第 2 石油類(非水溶性)　危険等級　Ⅲ

船舶安全法　：危険物船舶運送及び貯蔵規則 第 3 条 引火性液体類および毒物

航空法　：航空法施行規則 第 194 条 引火性液体および毒物

農薬取締法　：登録番号　第 10919 号

16. その他の情報

参考文献

・JIS Z 7252：2019　GHS に基づく化学物質等の分類方法
・JIS Z 7253：2019　GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法 ― ラベル、作業場内の表示及び安全データシート (SDS)
・独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE-CHRIP)
・原料 SDS
・日本化薬株式会社『カヤク・ダイアジノン乳剤 40』SDS (2024 年 4 月 1 日作成)

この製品安全データシートは現時点で入手可能な資料等をもとに作成しておりますが、物理化学的性質、危険有害性等に関しては、いかなる保証も成すものではありません。また注意事項は、通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いを行なう場合には自らの責任において用途に適した処置を講ずることが必要であることを理解した上で活用して下さい。